澄川中学校区「小中一貫した教育」グランドデザイン

澄川中学校　澄川小学校　澄川南小学校　澄川西小学校

【子どもの実態】
・基本的生活習慣が身に付いている
・各校に不登校傾向の子どもがいる。

【地域の実態】
・地域との関係は良好であり、非常に協力的である。

札幌市の「小中一貫した教育」の目的
9 年間の系統性・連続性のある教育を重視し、子どもの声を聴き、調和のとれた育ちの一層の充実を図る。

推進の視点
- 9年間を通した子どもの学びのつながり
- 子ども理解・生徒指導の連続性
- 教職員の連携・協働
- 家庭や地域との関わり

澄川中学校区の「目指す学校像」
未来につながる子どもの可能性を伸ばす学校

澄川中学校区の「目指す子ども像」
未来に向かって明るくたくましく歩む子ども

「学ぶ力」の育成
○個別探究・協働探究の最適な組合せによる課題探究的な学習の充実
○意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力を伸ばす授業構築
○自己調整し、試行錯誤を繰り返す等、主体的に学習に取り組む態度の育成
○基礎的・基本的な知識及び技能の習得、ICT を活用した情報活用力の育成

「豊かな心」の育成
○「あいさつ運動」など、学校・学校間での集団体験・集団活動の充実
○道徳教育の推進、社会性を育む体験的活動、言語環境の充実
○命を大切にする指導の徹底と、「いじめのない学校」を目指した交流の充実
○新たな不登校を生まない未然防止の取組、組織的・計画的な不登校支援

「健やかな体」の育成
○体育授業の充実による体力・運動能力の向上と連動を図る健康に関する指導の相互交流
○運動遊びの奨励による運動の日常化と運動に親しむ取組の充実
○運動の楽しさに触れられる課題探究的な学習の連続性と一貫性
○保健体育科・道徳科・特別活動・食育等を通して、自他の生命を大切にする 9 年間の積み上げ

小中一貫した教育
○小小交流や小中交流の充実、確かな引継ぎから情報共有によって、円滑な中学校への接続を図る
○発達の段階に応じた子ども理解の合同研修
○キャリアパスポートの共通部分の継続と中学校への確実な引継ぎ
○9 年間を通して同質性から多様性を大切にし、児童生徒の相互承認の感度を高めていく取組
○必要に応じて SC と各校 6 年児童が面談し、中学へつなぐ

コミュニティ・スクール　地域と共にある学校
○「さっぽろっ子自治的な活動」と学校運営協議会をつなげ、「子どもの声」を澄川中学校区の「小中一貫した教育」に反映させる。
○保護者や地域への積極的な情報発信を行うとともに、対話の積み重ね意思疎通を図る。
○地域社会の方々との連携及び協働によって、身近な大人との交流を図る。

【推進体制】
① 管理職(学校長)会議
・「小中一貫した教育」の計画・評価、実務担当者会議への指導助言等。
② 実務担当者会議
・教頭や教務主任等が実務担当者となり、教職員の連携をサポートする。
③ 春の研究集会
・全教職員が参加し、各校の授業参観を通して澄川地区の児童生徒の様子を知り、9年間のつながりを意識した指導に生かす。
④ 担当者会議
・6 年生担任／児童会・書記局担当者が中心となり、取組の企画・運営を行う。

【推進の手立て】
パートナー校同士による春の研究集会での交流
① 授業づくり部会の実施
② 授業参観・討議の実施（毎年2校ずつ授業公開）
③ 年度ごとにテーマを設定した交流
④ 取組の積み上げ・可視化・共有　NEW

SumiDGs（SDGs）の取組
① 4 校の実践から系統性・発展性へ
② 課題探究的な学習の取組の推進
③ 4校の交流（「小小交流」「小中交流」）による情報共有
④ 澄川地域への積極的な情報発信と対話

発達の段階に応じた継続的な子ども理解の共有
○児童生徒の相互承認の感度を高めていく取組と実態の共有化
○小中間の円滑な引継ぎ

【検証の方法】
○成果と課題を明らかにし、グランドデザインの見直しを図る（年度ごとに更新する）。
○AAR サイクル、PDCA サイクルを働かせ、持続可能なものへ